

101年目のユニー

アピタも30周年を迎え、来年からのホールディングス化を前に ユニーグループの環境社会貢献はどう進化していくのでしょうか。

ユニー株式会社 代表取締役社長 前村哲路

アピタは30年前、新しいライフスタイルを提案する「ニュー GMS (総合小売業)」として誕生しました。
30年目のアピタは、ライフスタイルの大事な要素として環境や社会貢献を提案する「エコストア」を目指しています。
こうした社会貢献が企業価値を高めることを踏まえ、新たな戦略としてホールディングス化を進める意義を、
前村哲路社長への百瀬則子環境社会貢献部長によるインタビューで紹介します。

お客様と一緒に創るエコストア

●百瀬 ユニーがエコ・ファースト企業に選ばれて4年、今年の3月には「エコ・ファーストの約束」の更新を細野豪志環境大臣と交わしました。今回の約束は、特に「店舗での環境教育」や「環境にやさしい来店のための交通手段」などを取り入れました。新しい価値観のライフスタイルを提案する店づくりを実現するものです。

●前村 ユニーは「生活提案業」を自負しています。特に昨年の東日本大震災以来、自然の脅威や原子力発電に象徴されるエネルギーや放射能汚染の問題。さらに普通の生活が「持続可能」であり続けるためにはどのような暮らし方を選べばよいのかを考えるようになりました。

そうしたなかで、ユニーは持続可能な社会の構築を目指したエコストアとして、名古屋市のアピタ千代田橋店が、日本環境協会から小売店舗としては初めての「エコマーク」認定を受けました。これはかなり大きな意味を持ちますよね。

●百瀬 ええ、認定のハードルは非常に高く、30数項目すべてエコマークの基準に達しないと認定されません。店舗そのものは新しくなく、設備もエコストアとして整っていない店がエコマークを取得したということに価値があります。重要な点は環境保全活動をお客様と一緒に取り組んできた実績です。レジ袋を使わないお買い物やエコ野菜の販売、容器包装だけではなく小型家電や廃食用油などのリサイクル資源の店頭回収により、店舗が地域のエコステーション的存在になっています。また、環境学習や見学なども小学生から一般の方までを対象に常時実施しています。これから地域の自慢のエコストアを目指していきます。

●前村 そして2011年9月にリニューアルオープンした「ピアゴ蟹江店」は、これぞエコストアという店で、環境に対して現在一番良いといわれる機能を装備したエコストア

となる店舗です。この店舗は実験的存在として、ここで効果を検証して有効だと認められたら、他の店舗にも普及させるつもりです。ユニーや他の小売業が分かっている、なかなか環境整備に取り組みけない原因は、やはりコストの問題です。設備に費用がかかっても、エネルギーコストが下がったり、CO₂が削減できると検証できれば、全店導入も進むはずですよ。ピアゴ蟹江店のこれからのデータが次のエコストアを創っていくわけです。

●百瀬 ピアゴ蟹江店で導入したLED照明等は環境効果もコスト削減にも有効だということですが、太陽光発電などは、設備費用がまだかなりかかりますね。

●前村 そこそが理念だと思います。地球規模でみれば、これから30億人という人口爆発が起こるわけでしょう。地球が健全に生きていてこそ商売が成り立つわけだから、やるべきことはやらないといけません。

高齢者にもやさしいエコストア

●百瀬 エコストアは人にもやさしい店であってはならないですね。特にこれからは高齢者の割合が増え、今までアピタやピアゴに来店されていたお客様が、身体が不自由になられたり認知症になられたりして、お買い物が難しくなったということをお聞きしています。ユニーでは従業員が「サービス助手士」の勉強をして資格を取得、認知症についても学習しています。また、来店できないお客様にはネットスーパーもご利用いただけますね。

●前村 そうですね、ネットスーパーはこれから需要が増していくと思います。現在は60店舗ですが、将来はユニーが店舗を持っている地域全てに展開していきます。より手軽にご利用いただくためには、高齢の方への受注と配送について簡単で合理的にすることが必要です。注文を電話で受けたり、配送をユニーグループのコンビニ、サーク

